

# 令和7年度 学校評価報告書

丹波篠山市立篠山東中学校

校長 尾松直樹

## 1 学校教育目標等

【教育目標】 つなぐ力を持ち、自ら考え判断し行動できる生徒の育成  
～ 創造（考えて）・挑戦（やってみて）・感動（次の意欲へ）～

## 2 今年度の重点目標

- 1 確かな学力の育成
- 2 安全安心な居場所づくりと絆づくり（発達支持的生徒指導の推進）
- 3 地域とともにある学校づくり
- 4 教職員の育成と働き方改革（ウェルビーイングな職場づくり）

## 3 学校自己評価結果

（達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する）

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
学 習 指 導	授業の最初に「めあて」を提示し、最後の「振り返り」を通して理解度をチェックする。	C	授業のユニバーサル化、基礎基本の定着の観点からも、本校の課題といえる。研究推進の取組とリンクさせ、定着を図りたい。
	ペア学習やグループ学習などの対話を取り入れた授業実践を通して、生徒の考えを深めたり広げたりする。	B	集団思考が効果的に取り入れられており、対話を通して学習内容の理解が深まっていることは成果といえる。
	家庭学習と授業との接続を図るため、学習内容や学習方法（学び方）を指導するとともに、家庭への啓発を強化する。	C	『自学自習』を習慣化させるには、学習方法（学び方）の習得が必要である。教科性を考慮しながら、指導の個別化を充実させる。
	休み時間や木曜の放課後（がんばりタイム）等の時間を活用し、課題改善に向けて個別指導を行う。	A	自主学習ノートの取組、木曜放課後のがんばりタイムの活用など、全校的な取組を通して、学習への意欲喚起を図れたことは成果である。
生 徒 指 導	学年・学級経営を基盤とし、誰もが楽しいと思える学校づくり（居場所と絆づくり）に努める。	B	「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒の割合は約9割。居場所と絆づくりのため、更に授業や行事をはじめ、全教育活動の充実に取り組む。
	不登校やいじめ等問題行動への対応については、生徒指導委員会において指導方針を定め、専門家（SC、SSW）及び関係機関等と連携して組織的に行う。	B	定例の生徒指導委員会で情報を共有し、個々のケースに対し指導方針を明確に示すことができた。今後も即効性を求めることなく、専門家等とも連携を図り、中長期的に粘り強く取組を進めたい。
	毎月の安全点検、交通立番及び年間の各種訓練等を通して、生徒の安全意識・危機回避能力の向上に努める。	B	訓練のマナー化を防ぐため、新たな視点を取り入れるなど、年間計画を工夫し、もう少しバランスよく継続した取組が実施できるようにする。
	情報機器等の取り扱いについては、家庭や関係機関等と連携し、生徒の適切な利用を促す指導に努める。	C	一定数利用に課題のある生徒がいることが推察できる。情報発信の頻度を増やし、関係機関とも連携を図るなどして対応に努めたい。
地 域 あ と る と 学 校 に づ く り	学校だよりをはじめ、各種たより、ホームページ等を通じて、積極的に情報発信に努める。	B	各種たよりを通して広報に努め、意図的・継続的に情報発信を行うことができた。質・量を精査しつつ、内容の充実に努めていく。
	コミュニティ・スクール推進事業を通して、めざす生徒及び学校像を共有し、地域住民の学校運営への積極的な参画と協働の促進に努める。	B	「熟議」「コミスク事業」を通じて、少しずつ学校運営への理解は図られている。今後は地域資源等の活用を通じて、生徒の地域理解と愛郷精神の醸成を図りたい。
	小中連携（事業）を通して、校区及び校種相互の課題を共有し、育ちと学びの円滑な接続に向けて共通実践を図る。	B	連携事業の消化に留まらず、事業目的を共有し、9年間を通じた学びと育ちについて、今一度校種間で役割分担を明確にする必要がある。
働 き 方 改 革	ノー会議デー、ノー部活デー及び週1回の定時退勤日の完全実施に向けて、組織的実践を進める。	C	小規模校故に教職員1人当たりの業務量も多く、各種取組の完全実施には至らなかった。次年度に向けて、業務量の削減・平準化が課題である。
	計画的な年休取得を推進し、教職員の健康の保持増進を図るとともに、勤務時間の割り振りを確実に行う。	B	組織的な取組となると課題も残る。個人差もあがり一律にとというのは難しいが、学年団を基盤にラインでケアできるよう意識改革に努めたい。
	学校評価等を基に学校課題を“見える化”し、共有化を図るとともに、次年度に向けた対応方策の決定及びカリキュラム・マネジメントを進め改善を図る。	A	学校改革推進委員会を単なる情報共有の場に留めず、学校課題の共有及び次年度への改革につながる校内のコア委員会として機能させる。今年度もその役割を果たせたことは大きな成果である。

#### 4 学校関係者評価結果

##### (1) 重点目標についての評価

- ・重点目標は学校教育目標を達成するための具体的な取組内容である。既に取り組んでいただいているが、教職員や生徒に機会あるごとに共有していくことが必要である。
- ・この1年、学校行事等に関わるが多かったが、教職員はとても頑張られている。諸問題に対しても真摯に対応していただいている。
- ・社会で生き抜く力を身につける教育が重要である。すべての教育活動において、その視点を大切にしてほしい。
- ・多様性を認め合う社会が構築されつつある。自分だけでなく相手を理解することが大事である。自分のことを大切にできる生徒は、相手のことも大切にできる生徒である。
- ・まずは、地域の諸行事に参画することで地域とつながるきっかけを持ってほしい。それには、保護者の理解が重要である。

##### (2) 総合的な評価（意見・感想）

- ・工夫をしながらいろんな取組をされている。行動しないと結果はでないので、本当によく頑張っておられると思う。
- ・学校運営協議会・授業参観・学校行事・生徒会活動など、1～3年生の心身の発達を、委員として感じる事ができた。東部の子どもは素直で真面目な良い面もあるが、人と違ったことをするのに抵抗があり、失敗を悪いことのように捉えがちである。自分の考えを堂々と発表したり、失敗をしても認め合ったりできる人間関係を大切にしてほしい。
- ・地域との交流については、生徒が地域のことを好きになれるような、無理のない活動を期待している。

##### (3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別指導や家庭学習の充実を図る取組を期待したい。興味のあることを伸ばすことも大切だが、中学校3年間は基礎・基本を徹底して身につけさせることの方が大事である。授業での「わかった」「できた」という実感が、次のステップやチャレンジにつながるように指導していただきたい。</li> <li>・学校自己評価の数値以上に、教職員は頑張っておられると思う。</li> </ul>
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行き届いた生徒指導が展開されている。ただ、教職員の目の届かないこともあると思うので、日頃から生徒はもちろん、家庭や地域との信頼関係を築いておくことが大切である。</li> <li>・情報機器の取り扱いについては保護者（家庭）の課題もあると思う。情報発信する機会を増やして改善できれば良い。</li> </ul>
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員との懇談会（第4回学校運営協議会）で出た、「生徒会が中心となって広報誌を作成し、地域に情報を発信する」というアイデアは、自分たちの行いが整理できる取組でもあり大変意義がある。是非、実現してほしい。</li> <li>・「もっと住みやすい地域にするにはどうしたらよいか」などのテーマで、一度生徒に話し合わせてみてはどうか。その意見を市に提言するような機会があれば、更に良いと思う。</li> <li>・地域の人から学ぶことは心身の成長や人間関係に大きく影響し、大変効果がある。</li> <li>・いじめ問題等も情報をオープンにさせていただくことで共に考える機会になった。学校だよりを通して明るい話題や課題等、引き続き情報発信をお願いしたい。</li> <li>・自己評価、改善方策ともに過不足ないと思う。</li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな団体から、夏休みの宿題・課題等を案内されるが、なんでもかんでも教育現場に押しつけているように思う。教育委員会は各学校長の判断に任せるのではなく、もっとしっかりと内容を精選し、各学校に指示・指導をするべきである。</li> <li>・教職員の負担が少しでも減るように、更なる改革が進むことを願っている。</li> </ul>